

アラムはイスラエルの若者達の活躍で敗れさり、ベン・ハダデ王はアフェクに逃げて、潜んでいました。

1. アラム王の処遇 (31~34)



- ① 命乞い (31) 「家来たちは彼に言った。『イスラエルの家の王たちはあわれみ深い王である、と聞いています。それで、私たちの腰に荒布をまとい、首になわをかけ、イスラエルの王のもとに出て行かせてください。そうすれば、あなたのいのちを助けてくれるかもしれません。』」 敗戦したアラムの家来たちは王だけでなく自分についても、生き残る道を懸命に模索します。イスラエルのアハブ王があわれみ深いという風説を根拠にして、命乞いに出かける許可を求めました。
- ② アハブの反応 (32) 「こうして彼らは腰に荒布を巻き、首になわをかけ、イスラエルの王のもとに行行って願った。『あなたのしもべ、ベン・ハダデが、(どうか私のいのちを助けてください) と申ししています。』するとアハブは言った。『彼はまだ生きていますのか。彼は私の兄弟だ。』」 彼らは腰に荒布を巻き、首には縄をかけて出かけ、アハブ王の前で願ったのです。これは絶対的服従を示しています。ベン・ハダデはアハブ王に最大の敬意を示し、命乞をしたのです。アハブ王は「彼は私の兄弟だ」と反応。今や立場が逆転して、少し舞い上がっているのでしょうか。
- ③ 契約締結 (33~34) 「この人々は、これは吉兆だと見て、すぐにそのことにより事が決まったと思い、『ベン・ハダデはあなたの兄弟です。』と言った。王は言った。『行って、彼を連れて来なさい。』ベン・ハダデが彼のところに出てくると、王は彼を戦車に乗せた。ベン・ハダデは彼に言った。『私の父が、あなたの父上から奪い取った町々をお返しします。あなたは私の父がサマリヤにしたように、ダマスコに市場を設けることもできます。』『では、契約を結んであなたを帰そう。』こうして、アハブは彼と契約を結び、彼を去らせた。」すると家来たちは、すかさず「ベン・ハダデはあなたの兄弟です」と返す。ハダデが来ると、戦車に乗せます。ハダデは契約条項を伸べます。①町々の返上②ダマスコ市場設置。アハブは契約締結後に彼らを帰国させたのです。

2. 預言者への御声 (35~38節)

- ① 打つことを拒む (35) 「預言者のともがらのひとりが、主の命令によって、自分の仲間に、『私を打ってくれ』と言った。しかし、その人は彼を打つことを拒んだ。」ある預言者が、主なる神の命令によって、仲間にその旨を伝えて、「私を打ってくれ」と頼みました。しかし、そんな要望は簡単に受けられるものではありません。仲間はそれを拒みました。

②御声に従わず (36)「それで彼はその人に言った。『あなたは主の御声に聞き従わなかったので、あなたが私のもとから出て行くな、すぐ獅子があなたを殺す。』その人が彼のそばから出ていくと、獅子がその人を見つけて殺した。」主のことばを伝えた預言者は、もう一人の預言者と思われる人に、御声に聞き従わなかったという理由で、すぐに獅子に殺されると告げました。そして、その通りになったのです。

③目に包帯をし (37~38)「ついで、彼はもうひとりの人に会ったので、『私を打ってくれ』と頼んだ。すると、その人は彼を打って傷を負わせた。それから、その預言者は行って道ばたで王を待っていた。彼は目の上にほうたいをして、だれかわからないようにしていた。」もう一人の仲間会い、同じ要望をすると、その人は彼を打ったのです。預言者は傷を負い、目の上は包帯をし、道端でアハブ王を待ちました。

3. アハブ王への主からの促しと反発 (39~43)

①アハブ王へのたとえ話 (39~40)「王が通りかかったとき、彼は王に叫んで言った。『しもべが戦場に出て行くと、ちょうどそこに、ある人がひとりの者を連れてやって来て、こう言いました。『この者を見張れ。もし、この者を逃がしでもしたら、この者のいのちの代わりにあなたのいのちを取るか、または、銀一タラントを払わせるぞ。ところが、しもべが何やかやしているうちに、その者はいなくなってしまう。』』すると、イスラエルの王が彼に言った。『あなたはそれとおりにさばかれる。あなた自身が決めたとおりに。』アハブ王がやってくると、その預言者は王に叫んで、たとえ話を伝えました。“ある人が、戦場にいたしもべに、連行してきた人をしっかりと見張るように命じたのです。逃したら、その人の代わりに死ぬか、銀一タラントを払わせると告げたのです。(キリストの時代に一デナリは一日の労賃、一タラントは 6000 デナリ：マタイ 18:21)。ところがしもべはうかつにも、その人を見失ってしまったのです。”アハブ王は怒って「お前はそれとおりにさばかれる。それはお前が決めたことだから」と、断じたのです。

②預言者のひとりだとわかり (41)「彼は急いで、ほうたいを目から取り除いた。そのとき、イスラエルの王は、彼が預言者のひとりであることを見た。」そのとき、その預言者は、ほうたいを取りました。アハブ王は即座に、それが預言者のひとりであると気づきました。

③聖絶すべきを逃し (42~43)「彼は王に言った。『主はこう仰せられる。『わたしが聖絶しようとした者をあなたが逃がしたから、あなたのいのちは彼のいのちの代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』』イスラエルの王は不きげんになり、激しく怒って、自分の家に戻って行き、サマリヤに着いた。』預言者は王に言いました。“さ

きほどのたとえ話はこうです。ある人は主なる神、あなたはたとえのなかのしもべです。そして連れてこられた人はベン・ハダデ王です。あなたは、本来イスラエルによって敗北したアラム王を聖絶しなければならないのに、逃がしてしまったのです。それゆえに、あなたはベン・ハダデの代わりとならなければなりません。”これを聞いた、アハブ王は不機嫌になって、激しく怒り、自分の家に向かい、サマリヤの自宅に着いたのでした。

《結論》 イスラエルの国と不信仰のアハブ王に対して、神は憐みをくださっていましたが、アハブには神に立ち返ることが期待されていました。戦力からすれば不利にもかかわらず、主はイスラエルに勝利を与えてくださいました。アハブはこの時に、主なる神の前に出ていくべきでした。

アハブはアラムのベン・ハダデの家来がやって命乞いをした時に、ハダデが生きているということを知りました。イスラエルが神から与えら根本理念に聖絶がありました。つまり、ヨシュア記 6~7 章等に出てくるように、戦いにあたる相手は、神に捧げるものとして一掃する必要があったのです。戦利品などにも手を出してはなりませんでしたが、今ここでは、アラムの王ハダデが家来を通して、命乞いに来た時に、アハブは温情なのか戦略なのかは判然としませんが、この原則を破ったのです。ハダデと会い、提示された条件をのみ、契約を締結して、彼を国に帰してしまったのです。

これに対して、神から送られた預言者はこれを弾劾します。それもたとえを用いてのメッセージでした。つまり、連行されてきた人を、しもべはしっかりと見張っていなければならなかったのに、油断して逃がしてしまったのです。このたとえを通して、主はアハブ王がベン・ハダデを逃がしてしまったことを語っているのです。たとえのなかでは、しもべは身代わりとなって、自分の命あるいは 1 タラントをもって償いをしなければならませんでした。アハブはこのたとえを聞いて、そのしもべは裁かれなければならないと言いました。アハブは自分が償いをしなければならない張本人であると知らされます。

ところで、このたとえ話は、ダビデが罪を犯した時の場合と似ています。ダビデは戦争で国の兵たちが出ている時に、王宮の屋上で見つけた女性バテ・シェバを呼びよせました。後に子が宿されたことを知ると、戦場から夫のウリヤを帰国させ偽装工作をしようとします。しかし、ウリヤは戦友たちのことを思い、家には帰りませんでした。困ったダビデはウリヤを最前線に出させて、結果的に死を招かせました。このことについて、預言者ナタンはダビデのところにやってきて、たとえ話で語りました。富む人が貧しい人の大切な羊を取り上げて殺して調理して人をもてなしたというものでした。

ダビデはそんな金持ちは殺してしまえというのです。ナタンは「あなたがその男です。」と告げるとダビデは自分の罪を想起します（II サムエル 11、12）。

ここで、ダビデ王とアハブ王の対応+が分かれるのです。ダビデは心から悔い改めをしました。それは詩篇 51 篇に綿々とつづられている通りです。ダビデは聖なる神の前に、自らの罪を認め、神に赦しを願うのでした。一方のアハブは不機嫌になり、激しく怒って、悔い改めようとはしませんでした。アハブに与えられた更なる、慈愛の神の回心の促しに対して、アハブはそれを拒否したのです。

私たちはこの場合のどちらでしょう。ダビデですか、アハブですか。罪人という点では同じです。素直に神の前に出て赦しをいただきましょう。讚美歌 243 にある富む若者、ペテロ、トマスも弱い者でした。聖なる神の前に出て、自らの罪を言い表そうではありませんか。神の恵みがありますように。